教育研究上の目的

生物資源科学研究科

優れた研究者と高度の専門技術者の育成に主眼を置き、充実した教育研究指導体制の下で、基礎科学を応用領域にまで発展し得る力量を備えた人材を養成する。特に新しい産業構造・社会の変化に迅速に対応出来る総合的な知識と創造性豊かな人材、また国際的視野で新しい科学・技術上の問題を総合的に解決出来る見識豊かな人材などの養成を教育・研究指導の目的とする。

■ 生物資源生産科学専攻

（博士前期課程）

植物生産科学、動物生産科学、水圏生物生産科学、森林生産科学、生産環境工学の各分野から構成される生物資源生産科学に関する知識を教授する。また、生物生産に関わる事項について生物資源と生物環境の両面から総合的に捉え、生物資源を持続的、かつ有効に管理・活用するための研究指導を行ない、広い視野から問題点を把握し、応用力を発揮しうる人材の養成を目指す。

（博士後期課程）

生物資源生産に関わる各分野での基礎・応用研究をさらに発展させ、高度な問題解決能力と創造力に富んだ専門技術者と優れた研究能力を発揮できる専門の研究者の養成を目指す。

■ 生物資源利用科学専攻

（博士前期課程）

生物資源利用学、生物資源利用化学、微生物利用科学、食品科学の4分野から構成される生物資源利用に関する知識を教授する。また、生物資源の利用に関わる課題や生物資源を有効利用する技術の開発を研究課題として、広い視野から問題点を把握し、その解決の取り組みにあたって応用力を発揮しうる人材の養成を目指す。

（博士後期課程）

生物資源利用に関わる諸問題について各分野から総合的に捉えた講義と研究指導を行なう。生物資源を有効に利活用できる技術の開発を可能にする専門技術者と、優れた研究能力と広い視野をもち、問題を把握し、応用力を発揮して解決できる有能な研究者を養成する。

■ 応用生命科学専攻

（博士前期課程）

生命工学的手法による生物及び生体機能の開発・応用と、環境に配慮した新たな生物資源の創製に関する基礎ならびに応用研究の手法・技術を指導し、当該分野における研究能力、または高度の専門性を要する職業等に必要な能力を有する人材を養成する。特に本課程では、生体分子科学、細胞生物科学、生体機能科学、分子生態科学の各分野に関わる講義と演習を行い、これらの専門分野の総合的学習による広い視野に立った学識を教授する。

（博士後期課程）

生体分子科学分野では生体分子の動態と生物学的機能、細胞生物科学分野では細胞機能の解明及び遺伝子資源の継続的利用、生体機能科学分野では生体諸機能の発現と制御、分子生態科学分野では環境中における生物機能の解析、開発、利用に関する学識の教授と、研究を指導する。これにより各分野において自立して研究活動を行い、また高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力と豊かな学識を有する人材を養成する。

■ 生物環境科学専攻

（博士前期課程）

ストレス耐性科学、環境計画学、環境創造保全学、環境情報科学の4分野から構成される生物環境科学に関わる講義・演習を通して、専門分野の基礎・応用的手法・技術を習得させる。もって人類の環境との共生・保全に貢献することができるような研究能力、または高度な専門性を要する職業等に必要な能力を備えた有為な人材を養成する。

（博士後期課程）

生物環境科学に関する基礎的能力、すなわち環境を構成する自然的側面と人為的側面との関係を分析する知識・手法に基づき、環境に関わる情報・解析科学、シミュレーション、計画学さらには環境倫理学を含む総合的で高度な研究へと発展させる。また、豊かな学識と優れた研究能力と専門技術を備えるのみならず、国内外の環境との共生のための環境政策に関わる提言能力をも有する人材を養成する。

■ 生物資源経済学専攻

（博士前期課程）

生物資源・食品経済学、食品流通・経営学、国際食料資源経済学、国際地域開発学の各分野から構成される生物資源経済学を学ぶことで、国内外における生物資源、特に生産・流通・消費に関する研究手法や理論を習得し、この分野の研究能力と専門技術を備えた農業、食品産業及び国際協力分野における優秀な人材を養成する。

（博士後期課程）

専門性に富みかつ高度な知識を学び、国内外における生物資源、特に生産・流通・消費に関する理論や実態を研究することで、この分野の優れた研究能力を持つ研究者や、高度な専門技術を備えた国際協力分野におけるリーダーとなりうる人材を養成する。

大学院生物資源科学研究科の「修了認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」及び「入学者の受入れに関する方針」

修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 博士前期課程

① 本研究科に所定の期間在籍し、教育目標に沿った研究指導を受け、所定の単位数を修得するとともに、研究科が開催する発表会を経て提出された修士論文の審査に合格した者に、修士（生物資源科学）の学位を授与する。

② 次の要求事項を満たしていることを、課程修了の目安とする。

「**生物資源科学の理解**」

生物資源の生産・利用・経済に関する科学と、それらの基盤である生命・環境に関する科学が、一体となって社会で果たす役割について十分に理解し、説明することができること。

「**専門性と倫理性**」

高い専門性を要する職に就くための知識や技術を修得するとともに高い倫理性を身につけており、専門領域の研究者や技術者との議論と協働を通して社会に貢献することができること。

「**発信力**」

関連する分野の研究者に対して、自身の研究成果とその独創性を説明するためのプレゼンテーションとコミュニケーションの能力を身につけていること。

2. 博士後期課程

① 本研究科に所定の期間在籍し、教育目標に沿った研究指導を受け、所定の単位数を修得するとともに、研究科が開催する発表会を経て提出された博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（生物資源科学）又は博士（学術）の学位を授与する。

② 次の要求事項を満たしていることを、課程修了の目安とする。

「**専門性**」

専門領域における深い学識と高度な技能を修得しており、研究者や専門家、またサイエンスコミュニケーションにおけるファシリテーターとして、自立して活動することができること。

「**人間性**」

論理的な手法により物事の本質を洞察し、社会に対する強い責任感と高い倫理性をもって自身の研究を見つめ、研究の目的や成果が人間と自然の共生に適っているかを理解していること。

「**指導力**」

研究の成果を、自身とは異なる専門領域のコミュニティーや市民に向けて発信することができ、また多様なコミュニケーション能力を活用することにより国内外や異文化圏でリーダーシップを発揮して活動できること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 博士前期課程

① 研究者や技術者としての素養を磨かせるため、地球史、科学史、倫理、統計などに関する講義、及び既成の専門領域の境界にとらわれない専攻横断型の講義を研究科の共通教育として開講する。

② 各専攻が独自に編成する講義と演習により、専門領域における基盤から先端までの知識や技能を修得させる。その際、複数の教員が担当するオムニバス形式を積極的に活用することで、幅広い視野に立って自己の研究を位置づける能力を養わせる。

③ プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を伸ばすため、学会等での成果発表や、産学連携・域学連携プロジェクトへの参加を支援する。

2. 博士後期課程

① 独創性の高い研究と学位論文の作成を通して課題を発掘し、それを解決する方法、論理的に思考し説明する方法、科学者・技術者としての倫理を修得させる。

② 研究の成果について、国内外の学会や研究集会での発表や学術雑誌への論文投稿を支援することを通して、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨かせる。

③ 学外研究者との共同作業や産学連携プロジェクト、域学連携活動への参加を支援し、主体性をもって多様な専門家と協働することの大切さやその魅力について学ばせる。

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

1. 博士前期課程

生物資源科学研究科は、日本大学教育憲章と教育理念である「自主創造」に基づき、生物資源の生産と利用に関する科学、生命科学、環境科学の各分野の学識や技術を駆使して、社会に貢献する人材を育成する。博士前期課程では、基礎科学を応用領域にまで発展させ、倫理性を身につけて社会貢献ができ、表現力豊かな人材の育成を目指す。この目的のため、研究活動を支える十分な基礎学力と教養を備え、論理的な思考ができ、創造力と社会性のある人を、国内外から広く受け入れる。

2. 博士後期課程

生物資源科学研究科は、日本大学教育憲章と教育理念である「自主創造」に基づき、生物資源の生産と利用に関する科学、生命科学、環境科学の各分野の学識や技術を駆使して、国際社会に貢献する人材を育成する。博士後期課程では、深い学識を持ち、社会に対する責任感と倫理性を備え、人間活動が自然との共生に適っているかを常に吟味できる人材の育成を目指す。この目的のため、自ら課題を設定して積極的に研究に取り組む意欲があり、独創性を重視しつつ多様な価値を受容して尊重し、研究者や高度な専門技術者を目指す人を、国内外から広く受け入れる。